

WebSphere Application Server for Multiplatforms



Edge Components アップデート

バージョン 6.0.1

WebSphere Application Server for Multiplatforms



Edge Components アップデート

バージョン 6.0.1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、19 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

この版は、以下のプログラムに適用されます。

WebSphere Application Server for Multiplatforms, バージョン 6.0.1

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GI10-3353-00
WebSphere Application Server for Multiplatforms
Updates for Edge Components
Version 6.0.1

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

第 1 章 Edge Components 6.0 の更新 . 1

更新の取得	1
新規にサポートされる 64 ビット・プラットフォーム (Itanium 2、AMD Opteron、PowerPC 64 ビット)	1
現在サポートされているプラットフォームでのインストール	2
更新のインストール	2
AIX、HP-UX、Linux、または Solaris 上での更新のインストール	2
Windows 2000 および Windows Server 2003 での更新のインストール	9
更新のインストール後にシステムを構成する方法	10
更新の除去	10

第 2 章 Edge Components リフレッシュ・パック製品情報 . 13

リフレッシュ・パックにあるパッケージ・ファイル名とファイル・セットのリスト	13
---	----

前提条件となる Edge Components のバージョン	15
サポートされるシステム	15

第 3 章 Edge Components v6.0.1 (リフレッシュ・パック 1) の内容 . 17

リフレッシュ・パック 1 での機能拡張	17
Load Balancer の追加の 64 ビット・プラットフォーム・サポート	17
製品 CD で提供される Java 2 SDK	17
UNIX および Linux システムでの Mozilla ブラウザーの要件	17
Solaris のデフォルトのアダプター・タイプ	18
Edge Components v6.0.1 (リフレッシュ・パック 1) で修正された問題	18

特記事項 . 19

商標	21
--------------	----

第 1 章 Edge Components 6.0 の更新

このセクションでは、IBM® WebSphere® Application Server の Edge Components バージョン 6.0 に対する更新を入手してインストールする一般的な方法を説明します。リフレッシュ・パックの内容の詳細は、以下を参照してください。

- 17 ページの『第 3 章 Edge Components v6.0.1 (リフレッシュ・パック 1) の内容』

Edge Components の資料は、「InfoCenter」Web ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/ecinfocenter.html>) で入手できます。

WebSphere Application Server 製品に関連した資料は、「Library」Web ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/library/>) で入手できます。

Edge Components のセルフ・ヘルプ情報は、WebSphere Application Server の Web サイト (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/support/>) の「Support」ページの Technote データベースから入手できます。

- 「Support」ページの「Self Help」セクションにリストされている **Technote** をクリックします。
- それからカテゴリ「**Edge Component**」を選択してください。

更新の取得

AIX®、HP-UX、Linux、Solaris Operating System、または Windows® システム用の Edge Components v6.0.1 は、現在サポートされているプラットフォーム上の既存のインストール用リフレッシュ・パック、および新規にサポートされた 64 ビット・プラットフォーム用製品 CD の形式で入手できます。

新規にサポートされる 64 ビット・プラットフォーム (Itanium 2、AMD Opteron、PowerPC 64 ビット)

64 ビット JVM を稼動する Itanium 2、AMD Opteron、または PowerPC 64 ビット・プロセッサを使用するプラットフォームに Edge Components をインストールする場合は、製品 CD からインストールする必要があります。インストールに関する説明については、「Edge Components InfoCenter」Web ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/ecinfocenter.html>) でアクセス可能な資料「Edge Components 概念、計画とインストール」を参照してください。

注: Caching Proxy は、Itanium 2 および AMD Opteron 64 ビット・プロセッサで稼動するプラットフォームを除く、すべてのサポートされるプラットフォームで使用可能です。

新規にサポートされるプラットフォームの詳細については、17ページの『Load Balancer の追加の 64 ビット・プラットフォーム・サポート』を参照してください。

現在サポートされているプラットフォームでのインストール

Edge Components リフレッシュ・パックは、WebSphere Application Server Web サイトの「Support」ページ

(<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/support/>) の「Download」セクションからリンクします。

- 「Support」ページの「Download」セクションからリフレッシュ・パックの修正サービス・リリース (たとえばバージョン 6.0 リフレッシュ・パック 1) をクリックして、ダウンロード・サイトへのリンクをたどります。
- リンク先のサイトの指示に従って、Edge Components リフレッシュ・パックをダウンロードします。

以下のインストール手順を実行して、ご使用のシステムに Edge Components リフレッシュ・パックをインストールします。

更新のインストール

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、または Windows プラットフォームの場合：

- リフレッシュ・パック更新をインストールする前に、あらかじめそのシステムに **Edge Components バージョン 6.0** をインストールしておく必要があります。前提条件となる Edge Components のバージョンについては15ページの『前提条件となる Edge Components のバージョン』を参照してください。
- システムに **Edge Components バージョン 6.0** がインストールされていない場合、**Edge Components バージョン 6.0** をインストールしてください。バージョン 6.0 のインストール手順については、資料「*Edge Components* 概念、計画とインストール」を参照してください。

Load Balancer をインストールする場合、Load Balancer のライセンスはリフレッシュ・パックでは提供されないため、Edge Components のバージョン 6.0 の唯一の前提条件は、バージョン 6.0 ライセンス・ファイル (nd60Full.LIC) です。このライセンスの取得は、Edge Components バージョン 6.0 から Load Balancer のライセンス・パッケージをインストールするだけです。

Edge Components リフレッシュ・パックは、次のようにしてインストールします。

- **UNIX®** システムの場合: オペレーション・システムのパッケージ・インストール・システム (ネイティブ・インストーラー) を使用します。製品セットアップ・プログラム (共通インストーラー) は、リフレッシュ・パックに入っていません。
- **Windows** システムの場合: InstallShield インストール・プログラムを使用する。

AIX、HP-UX、Linux、または Solaris 上での更新のインストール

オペレーティング・システムのパッケージ・インストール・システムを使用して、システムを更新するのに必要なパッケージをインストールします。

始める前に

次の項目を必ず検討してから、リフレッシュ・パックのインストールを開始してください。

- 6.0 より前のバージョンの製品を使用している場合は、ご使用のシステムから必ずアンインストールしてください。
- Load Balancer を除いて、更新パッケージをインストールするには、対応するバージョン 6.0 のパッケージがすでにマシンにインストールされている必要があります。たとえば、バージョン 6.0 の Caching Proxy パッケージがマシン上にインストールされていない場合、Caching Proxy パッケージ用の Components リフレッシュ・パック バージョン 6.0.1 を適用することはできません。
- Load Balancer については、Load Balancer パッケージ用の、Edge Components リフレッシュ・パック バージョン 6.0.1 は Load Balancer バージョン 6.0 ライセンス・パッケージさえあればインストールできます。
- Edge Components リフレッシュ・パックにあるパッケージ名とファイル・セットの一覧については、13 ページの『第 2 章 Edge Components リフレッシュ・パック製品情報』を参照してください。

Caching Proxy (AIX、HP-UX、Linux、または Solaris) 用のパッケージのインストール

オペレーティング・システムのパッケージ・インストール・ツールを使用して、正しい順序でパッケージをインストールします。(すべての Edge Components パッケージのリストと、そのインストール順序については、9 ページの表 1 を参照してください。) この作業を完了するための標準的な手順は、以下で詳しく説明します。

注: UNIX システム上で Load Balancer コンポーネントを更新する場合は、6 ページの『Load Balancer (AIX、HP-UX、Linux、または Solaris) 用のパッケージのインストール』を参照してください。

1. ローカルの superuser root になります。

```
su - root
Password: password
```

2. Caching Proxy プロセスを停止します。

AIX の場合:

```
stopsrc -c -s ibmproxy
```

HP-UX の場合:

```
kill -9 proxy_PID
```

proxy_PID は、Caching Proxy プロセスのプロセス ID です。以下のコマンドを使用すると、Caching Proxy のプロセス ID を判別できます。

```
ps -e | grep ibmproxy
```

Linux の場合:

- SuSE Linux の場合:

```
/etc/init.d/ibmproxy stop
```

- Red Hat Linux の場合:

```
/etc/rc.d/init.d/ibmproxy stop
```

Solaris の場合:

```
kill -9 proxy_PID
```

proxy_PID は、Caching Proxy プロセスのプロセス ID です。以下のコマンドを使用すると、Caching Proxy のプロセス ID を判別できます。

```
ps -e | grep ibmproxy
```

3. 以下のコマンドで、インストール・ファイルの入ったディレクトリーに移ります。

```
cd download_package_directory/
```

4. パッケージをインストールします。

リフレッシュ・パックのパッケージのインストール順序は次のとおりです。

- a. gskit (Global Security Kit)
- b. icu (ICU Runtime)
- c. admin (Administrative Runtime)
- d. cp messages (Caching Proxy メッセージ)
- e. cp (Caching Proxy)
- f. 資料 (オプション)

システム別のインストール手順 —

• **AIX** の場合 :

```
installp -acXd source package_name
```

ここで、*source* はパッケージが含まれているディレクトリーで、*package_name* はパッケージの名前です。

たとえば、パッケージが現行のディレクトリーに存在する場合は、以下のコマンドを使用すると管理パッケージ (*wses_admin.rte*) がインストールされます。

```
installp -acXd . wses_admin.rte
```

また、パッケージが */tmp* ディレクトリーにある場合は、以下のコマンドを使用すると管理パッケージがインストールされます。

```
installp -acXd /tmp wses_admin.rte
```

System Management Interface Tool (SMIT) を使用するときには、**install_latest** オプションを使用します。「ソフトウェア更新をコミットする」フィールドの値を「**yes**」に設定してください。 .

• **HP-UX** の場合 :

```
swinstall -s /source package_name
```

source はパッケージの入っているディレクトリー、*package_name* はパッケージ名になります。

例えば、

- パッケージが現行のディレクトリーに存在する場合は、以下のコマンドを使用すると Caching Proxy 用管理パッケージ (WSES-ADMIN) がインストールされます。

```
swinstall -s /admin WSES-ADMIN
```

パッケージが正しくインストールされているかを検証します。

swlist コマンドを発行して、インストール済みの全パッケージのリストを表示します。たとえば、以下のようにします。

– Caching Proxy 用パッケージをインストールした場合、次のコマンドを実行して、インストール済みの全パッケージのリストを表示します。

```
swlist gsk*
swlist WSES*
swlist WSEC*
```

- **Linux** の場合：

```
rpm -iv --replacefiles package_name
```

ここで、*package_name* はパッケージの名前です。

たとえば、以下のようにします。

```
rpm -iv --replacefiles WSES_Admin_Runtime-6.0.1-0.686.rpm
```

-U オプションは使用しないでください。ここで注意することは、--replacefiles オプションはほとんどのパッケージに必要であるということです。このオプションを必要としないパッケージで指定しても、そのインストールには影響を与えません。インストールの後、新しいパッケージ以前にインストールされたバージョンは引き続きマシンに残ります。それらはアンインストールしないでください。

- **Solaris** の場合：

```
pkgadd -d source package_name
```

ここで、*source* は、パッケージが入っているディレクトリーで、*package_name* はパッケージの名前です。

たとえば、パッケージが現行のディレクトリーに存在する場合は、以下のコマンドを使用すると管理パッケージ (WSESadmin) がインストールされます。

```
pkgadd -d . WSESadmin
```

また、パッケージが /tmp ディレクトリーにある場合は、以下のコマンドを使用すると管理パッケージがインストールされます。

```
pkgadd -d /tmp WSESadmin
```

gskit をインストールする際は、以下のコマンドを使用すると、前のバージョンの gskit パッケージに上書きしてインストールされます。

```
pkgadd -a ./admin -d . gsk7bas
```

サイレント・インストールを使用するには、-a オプションを使用して管理ファイルを指定してください。instadm という名前の管理ファイルは、インストールするパッケージによって提供されます。

インストールの後、新しいパッケージ以前にインストールされたバージョンは引き続きマシンに残ります。それらはアンインストールしないでください。

Load Balancer (AIX、HP-UX、Linux、または Solaris) 用のパッケージのインストール

6.0 より前のバージョンの Load Balancer のアンインストール: リフレッシュ・パッケージをインストールする前に、6.0 より前のバージョンの Load Balancer がすでにインストールされているなら、まず先にそれを停止してアンインストールしなければなりません。必要に応じて、以下に示す手順を実行してください。

6.0 より前のバージョンの Load Balancer のアンインストール

1. root 権限でコマンド・プロンプトを開きます。
2. Load Balancer インストール・ディレクトリーに作成して入れてあったすべてのファイルを、バックアップ・ディレクトリーにコピーしてください。Load Balancer 構成スクリプトをすべて保管することも検討してください。
3. `dscontrol executor stop` コマンドを使用して、Load Balancer Executor を停止します。この Load Balancer Executor は、`dsserver` を停止してもなお、実行状態にしておくことができます。`dsserver` が実行していないというメッセージが出力される場合は、`dsserver` を開始してからコマンドを再実行してください。
4. `dsserver stop` コマンドを使用して、`dsserver` を停止します。
5. システム別のコマンドを使用した、6.0 より前のバージョンのすべての Load Balancer パッケージのアンインストール

a. AIX の場合:

Load Balancer 製品パッケージをすべてアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
installp -u ibmlb
```

b. HP-UX の場合:

Load Balancer 製品パッケージをすべてアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
swremove ibmlb
```

c. Linux の場合:

- Load Balancer に関連するパッケージがすでにインストールされているかどうかを、次のコマンドを使用して検査します。

```
rpm -qa | grep ibmlb
```

- 各 Load Balancer パッケージをアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
rpm -e package_name
```

ここで、*package_name* は個々の Load Balancer パッケージの名前です。

注: 個々のパッケージをアンインストールするときは、最後にインストールされたものから順に除去する必要があります。

d. Solaris の場合:

- Load Balancer に関連するパッケージがすでにインストールされているかどうかを、次のコマンドを使用して検査します。

```
pkginfo | grep ibmlb
```

- 各 Load Balancer パッケージをアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
pkgrm package_name
```

ここで、*package_name* は個々の Load Balancer パッケージの名前です。

注: 個々のパッケージをアンインストールするときは、最後にインストールされたものから順に除去する必要があります。

Load Balancer バージョン 6.0 リフレッシュ・パックのインストール:

注: Load Balancer バージョン 6.0 コンポーネントがご使用のシステム上にまだインストールされていない場合は、Load Balancer バージョン 6.0 ライセンス・ファイル (nd60Full.LIC) をインストールしてから、リフレッシュ・パックをインストールするだけで構いません。このライセンスを取得するには、バージョン 6.0 製品の Load Balancer ライセンス・パッケージをインストールするだけです。

リフレッシュ・パックのインストール

1. root 権限でコマンド・プロンプトを開きます。
2. Load Balancer のリフレッシュ・パックを入手して、それを一時ディレクトリーに入れます。
3. ビルド・パッケージを解凍して、tar ファイルを展開します。これにより、複数のファイル・セットが個別に作成されます。
4. システム別のコマンドを使用してソフトウェアをインストールします。たとえば、

a. **AIX** の場合:

- .toc ファイルがない場合は、次のコマンドを発行して .toc ファイルを生成します。

```
inutoc .
```

- Load Balancer (ibmlb.base.rte) 用基本パッケージをインストールするには、次のコマンドを発行します。

```
installp -acXd . ibmlb.base.rte
```

b. **HP-UX** の場合:

```
swinstall -s /source package_name
```

ここで、*source* はパッケージの入っているディレクトリー、*package_name* はパッケージ名になります。

たとえば、パッケージが現行のディレクトリーに存在する場合は、以下のコマンドを使用すると Load Balancer の基本パッケージ (ibmlb.base) がインストールされます。

```
swinstall -s /lb ibmlb.base
```

c. **Linux** の場合:

```
rpm -iv --nodeps --replacefiles package_name
```

ここで、*package_name* はパッケージの名前です。

たとえば、パッケージが現行のディレクトリーに存在する場合は、以下のコマンドを使用するとパッケージ (ibmlb*.rpm) がすべてインストールされます。

```
rpm -iv --nodeps --replacefiles ibmlb*.rpm
```

"nodeps" オプションによりどの順番でもパッケージを正しくインストールできます。

d. **Solaris** の場合:

```
pkgadd -d pathname package_name
```

ここで、*pathname* パッケージが入っているディレクトリーで、*package_name* はパッケージの名前です。

たとえば、パッケージが現行のディレクトリーに存在する場合は、以下のコマンドを使用すると Load Balancer 管理パッケージ (ibmlbadm) がインストールされます。

```
pkgadd -d . ibmlbadm
```

5. 上記のアンインストール時に保管または変更した構成ファイルおよび開始スクリプトをすべて復元します。

Edge Components パッケージ

以下の表には、Edge Components に付属して配布されるすべてのパッケージと、必要なインストール順序がリストされています。この表に指定されている順番に従って、リフレッシュ・パックに組み込まれているパッケージをインストールしてください。

注:

1. 必ずしもすべてのパッケージがリフレッシュ・パックに組み込まれているわけではありません。リフレッシュ・パックに組み込まれているパッケージで、以前にシステムにインストールしたパッケージのみを更新してください。
2. リフレッシュ・パックに組み込まれている特定パッケージのリスト、およびそのパッケージに対応する AIX ファイル・セットと、Solaris および Linux ファイル名については、13 ページの『第 2 章 Edge Components リフレッシュ・パック製品情報』を参照してください。
3. Linux の場合、"nodeps" オプションによりどの順番でもパッケージをすべて正しくインストールできます。

表 1. パッケージ・インストールの詳細

インストールされるコンポーネント	パッケージ (総称でリスト化) を次の順序で更新する
Load Balancer: • Dispatcher • Content Based Routing • Site Selector • Cisco CSS Controller • Nortel Alteon Controller • Metric Server Load Balancer 資料	1. ベース 2. 管理 3. ライセンス 4. デバイス・ドライバ (AIX の場合のみ) 5. LB コンポーネント 6. Metric Server 7. Load Balancer 資料 (<i>lang</i>)
Caching Proxy	1. gskit7 — Global security kit 2. icu — ICU Runtime 3. admin — Administrative Runtime 4. msg-cp- <i>lang</i> — メッセージ 5. cp — Caching Proxy
Edge Components 資料	<i>doc-lang</i>

Windows 2000 および Windows Server 2003 での更新のインストール

Edge Components 製品セットアップ・プログラムを使用して、Windows オペレーティング・システム上で以下のようにして Edge Components バージョン 6.0 をアップグレードします。

注: 現在インストールされている Load Balancer が開始されないようにするためには、まず最初に、以前に作成した開始スクリプトを編集して、リブート時に Load Balancer を開始するための全コマンドを一時的に抑止してください。さらに、Load Balancer サービスを「手動」に設定します。その後で、ご使用の Windows マシンを再始動します。

- Edge Components リフレッシュ・パックをダウンロードします。
- インストールされている Load Balancer コンポーネントがある場合、追加/除去プログラムを使用して、現行の Load Balancer コンポーネントをアンインストールします。
- 以下のいずれかの方法で **setup** プログラムを実行します。
 - コマンド・プロンプトを使用する場合:
 - Caching Proxy と Load Balancer をインストールする場合、または Caching Proxy のみをインストールする場合
 - ご使用のプラットフォーム用のインストール・ファイルが含まれているディレクトリに移動し、**setup** と入力します。
 - Load Balancer のみをインストールする場合
 - lb** ディレクトリに移動し、**setup** と入力します。
 - 「スタート」メニューから行う場合:

- a. 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
 - b. 「参照」をクリックします。
 - c. Caching Proxy と Load Balancer をインストールする場合、または Caching Proxy のみをインストールする場合は、プラットフォームに応じたインストール・ファイルの入ったディレクトリーを選択して、「**setup**」を選択します。
 - d. Load Balancer のみをインストールする場合は、lb ディレクトリーを選択して、「**setup**」を選択します。
 - e. 「開く」をクリックします。
 - f. 「**OK**」をクリックします。
4. インストール・プログラムに必要な情報を入力します。

更新のインストール後にシステムを構成する方法

Edge Components の更新がインストールされた後も、以前の Edge Components の構成情報がそのまま残っています。しかし、リフレッシュ・パックに新しい機能（機能拡張）が組み込まれている場合は、それらの機能を使用可能にするために、構成ファイルに指示を追加する必要があるかもしれません。

注: Load Balancer コンポーネントを更新する場合、以前の Load Balancer の構成を残しておくには、手動で構成ファイルを保存して復元する必要があります。詳細については、6 ページの『Load Balancer (AIX、HP-UX、Linux、または Solaris) 用のパッケージのインストール』を参照してください。

更新の除去

- Windows システム上で、Edge Components 製品セットアップ・プログラムを使用して、コンポーネントを除去します。セットアップ・プログラムの「保守オプション (Maintenance Options)」ウィンドウで「**除去 (Remove)**」を選択します。その後、Edge Components 製品セットアップ・プログラムを使用して、以前のバージョンを再インストールします。
- UNIX システムでは、リフレッシュ・パックを除去して以前の状態に戻すには、製品をアンインストールして、以前のバージョンを再インストールします。

AIX オペレーティング・システムがパッチをリジェクトするために提供しているメカニズムでは、パッチがリフレッシュ・パックの形式で提供される必要があります。Edge Components リフレッシュ・パックは製品形式のパッケージでのみ提供されており、リフレッシュ・パック形式のパッケージでは提供されていません。そのため、AIX SMIT メカニズムを使用して、パッチのインストールおよび除去を行うことはできません。AIX システムでパッチをリジェクトするには、ファイル・セットをアンインストールしてから、以前のバージョンを再インストールする必要があります。

ほとんどのコンポーネントでは、リフレッシュ・パックが除去されると、構成ファイルが `oldfiles/component` ディレクトリーに保管されます。このファイルを、製品の再インストールしたバージョンで使用することによって、パッチ適用前のバージョンでパッチ適用後の構成を保持することができます。しかし、Load Balancer コンポーネントの場合、パッチ適用済みの構成を維持するには、構成ファイルを手動で保

存する必要があります。詳細については、6 ページの『Load Balancer (AIX、HP-UX、Linux、または Solaris) 用のパッケージのインストール』を参照してください。

第 2 章 Edge Components リフレッシュ・パック製品情報

このセクションでは、更新されるパッケージとコンポーネント、およびリフレッシュ・パックが対象とするオペレーティング・システムについて説明します。

リフレッシュ・パックにあるパッケージ・ファイル名とファイル・セットのリスト

Edge Components リフレッシュ・パックには、以下のコンポーネントの更新が組み込まれています。

- Caching Proxy
- Load Balancer

下表には、リフレッシュ・パックに組み込まれているパッケージと、それに対応するパッケージ名がリストされています。

- AIX システム用 (表 2)
- Linux システム用 (14 ページの表 3)
- HP-UX システム用 (15 ページの表 4)
- Solaris システム用 (15 ページの表 4)

注:

1. リフレッシュ・パックのインストール手順は、2 ページの『更新のインストール』を参照してください。
2. パッケージのインストール順序については、9 ページの表 1 を参照してください。

表 2. AIX パッケージ名

総称パッケージ名	AIX ファイル・セット
gskit7 (Caching Proxy)	gskkm.rte
icu (Caching Proxy)	wses_icu.rte
admin (Caching Proxy)	wses_admin.rte
msg-cp (Caching Proxy)	wses_cp.msg.lang.base
cp (Caching Proxy)	wses_cp.base
doc (Caching Proxy と Load Balancer)	wses_doc.lang
注:	
1. AIX の場合、変数 <i>lang</i> は、言語固有コード (de_DE、en_US、es_ES、fr_CA、fr_CH、fr_FR、it_IT、it_CH、ja_JP、Ja_JP、ko_KR、_BR、zh_CN、ZH_CN、zh_TW、Zh_TW) のいずれかと置き換わります。	
ベース (Load Balancer)	ibmlb.base.rte
管理 (Load Balancer)	ibmlb.admin.rte ibmlb.msg.lang.admin
ライセンス (Load Balancer)	ibmlb.lb.license
デバイス・ドライバー (Load Balancer)	ibmlb.lb.driver

表 2. AIX パッケージ名 (続き)

総称パッケージ名	AIX ファイル・セット
Load Balancer コンポーネント	ibmlb.component.rte ibmlb.msg.lang.lb
Metric Server (Load Balancer)	ibmlb.ms.rte
Load Balancer 資料	ibmlb.doc.rte ibmlb.msg.lang.doc
<p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIX の場合、変数 <i>lang</i> は、言語固有コード (de_DE、en_US、es_ES、fr_CA、fr_CH、fr_FR、it_IT、it_CH、ja_JP、Ja_JP、ko_KR、pt_BR、zh_CN、ZH_CN、zh_TW、Zh_TW) のいずれかと置き換わります。 2. 変数 <i>component</i> は、disp (Dispatcher)、cbr (CBR)、ss (Site Selector)、cco (Cisco CSS Controller)、または nal (Nortel Alteon Controller) のいずれかと置き換わります。 	

表 3. Linux パッケージ・ファイル名

総称パッケージ名	Linux ファイル名
gskit7 (Caching Proxy)	gsk7bas.rpm
icu (Caching Proxy)	WSES_ICU_Runtime-6.0.1-0.hardw.rpm
admin (Caching Proxy)	WSES_Admin_Runtime-6.0.1-0.hardw.rpm
msg-cp (Caching Proxy)	WSES_CachingProxy_msg_lang-6.0.1-0.hardw.rpm
cp (Caching Proxy)	WSES_CachingProxy-6.0.1-0.hardw.rpm
doc (Caching Proxy と Load Balancer)	WSES_Doc_lang-6.0.1-0.hardw.rpm
<p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変数 <i>hardw</i> の部分には、i686 (IA-32 Linux)、s390 (s390 Linux)、ppc64 (Linux/PPC64)、ia64 (Itanium 2)、x86_64 (AMD Opteron) のいずれかが入ります。 2. 変数 <i>lang</i> の部分には、言語固有コード en_US、pt_BR、zh_CN、zh_TW、fr_FR、de_DE、it_IT、ja_JP、ko_KR、es_ES のいずれかが入ります。 	
ベース (Load Balancer)	ibmlb-base-6.0.1-0.hardw.rpm
管理 (Load Balancer)	ibmlb-admin-6.0.1-0.hardw.rpm
ライセンス (Load Balancer)	ibmlb-lic-6.0.1-0.hardw.rpm
Load Balancer コンポーネント	ibmlb-component-6.0.1-0.hardw.rpm
Metric Server (Load Balancer)	ibmlb-ms-6.0.1-0.hardw.rpm
Load Balancer 資料	ibmlb-lang-6.0.1-0.hardw.rpm
<p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変数 <i>hardw</i> の部分には、i386 (IA-32 Linux)、s390 (s390 Linux)、ppc64 (Linux/PPC64)、ia64 (Itanium 2)、x86_64 (AMD Opteron) のいずれかが入ります。 2. 変数 <i>lang</i> は、言語固有のコード (nlv-de_DE、nlv-es_ES、nlv-fr_FR、nlv-it_IT、nlv-ja_JP、nlv-ko_KR、nlv-pt_BR、nlv-zh_CN、nlv-zh_TW) のいずれかと置き換わります。英語の場合、変数 <i>lang</i> は doc に置き換えます。 3. 変数 <i>component</i> は、disp (dispatcher)、cbr (CBR)、ss (Site Selector)、cco (Cisco CSS Controller)、または nal (Nortel Alteon Controller) のいずれかと置き換わります。 	

表 4. HP-UX および Solaris のパッケージ名

総称パッケージ名	HP-UX ファイル・セット	Solaris ファイル名
gskit7 (Caching Proxy)	gsk7bas	gsk7bas
icu (Caching Proxy)	WSES-ICU	WSESicu
admin (Caching Proxy)	WSES-ADMIN	WSESadmin
msg-cp (Caching Proxy)	WSES-cpmlang	WSEScpmlang
cp (Caching Proxy)	WSES-CP	WSEScp
doc (Caching Proxy と Load Balancer)	WSES-DOC-lang	WSESdoclang
注:		
<ol style="list-style-type: none"> HP-UX では、変数 <i>lang</i> は、言語固有のコード (de_DE、en_US、es_ES、fr_FR、it_IT、ja_JP、ko_KR、pt_BR、zh_CN、zh_TW) のいずれかと置き換わります。 Solaris では、変数 <i>lang</i> は言語固有のコード (br、cn、cw、de、en、es、fr、it、ja、kr) のいずれかと置き換わります。 		
ベース (Load Balancer)	ibmlb.base	ibmlbbase
管理 (Load Balancer)	ibmlb.admin	ibmlbadm
ライセンス (Load Balancer)	ibmlb.lic	ibmlblic
Load Balancer コンポーネント	ibmlb.component	ibmlbcomponent
Metric Server (Load Balancer)	ibmlb.ms	ibmlbms
Load Balancer 資料	ibmlb.lang	ibmlblang
注:		
<ol style="list-style-type: none"> HP-UX では、変数 <i>lang</i> は言語固有のコード (nlv-deDE、nlv-esES、nlv-frFR、nlv-itIT、nlv-jaJP、nlv-koKR、nlv-ptBR、nlv-zhCN、nlv-zhTW) のいずれかと置き換わります。英語の場合、変数 <i>lang</i> は doc と置き換わります。 Solaris では、変数 <i>lang</i> は言語固有のコード (deDE、esES、frFR、itIT、jaJP、koKR、ptBR、zhCN、zhTW) のいずれかと置き換わります。英語の場合、変数 <i>lang</i> は doc と置き換わります。 変数 <i>component</i> は、disp (Dispatcher)、cbr (CBR)、ss (Site Selector)、cco (Cisco CSS Controller)、または nal (Nortel Alteon Controller) いずれかと置き換わります。 		

前提条件となる Edge Components のバージョン

Edge Components を旧バージョン Edge Components バージョン 6.0 から Edge Components バージョン 6.0.1 (リフレッシュ・パック 1) にアップグレードします。

サポートされるシステム

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合: サポートされるシステムと前提条件に関する詳細については、「Edge Components InfoCenter」Web ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/ecinfocenter.html>) でアクセス可能な資料「Edge Components 概念、計画とインストール」にある『ハードウェアおよびソフトウェアの前提条件』を参照してください。

このリフレッシュ・パックでサポートされるハードウェアおよびソフトウェアに関する最新の情報は、「WebSphere Application Server」 Web ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/doc/latest/prereq.html>) から入手してください。

第 3 章 Edge Components v6.0.1 (リフレッシュ・パック 1) の内容

Edge Components は、リフレッシュ・パックを適用することにより更新することができます。Edge Components v6.0.1 リフレッシュ・パックには、最新の機能拡張と修正がすべて組み込まれています。

リフレッシュ・パック 1 での機能拡張

Load Balancer の追加の 64 ビット・プラットフォーム・サポート

Edge Components v6.0.1 には、追加の 64 ビット・プラットフォーム・サポートが組み込まれています。

Load Balancer は、64 ビット JVM を稼動する以下のプラットフォームで使用可能です。

- Linux for Itanium 2 (64 ビット)
- Linux for PowerPC (64 ビット)
- Linux for AMD Opteron (64 ビット)
- HP UX Itanium 2 (64 ビット)
- Windows Itanium 2 (64 ビット)

注: Caching Proxy は、Itanium 2 および AMD Opteron 64 ビット・プロセッサで稼動する新規サポートのプラットフォームを除く、すべてのサポートされるプラットフォームで使用可能です。

Edge Components v6.0.1 リフレッシュ・パックでサポートされている 64 ビット・システムおよび他のすべてのサポートされているソフトウェア要件に関する最新の情報には、「WebSphere Application Server」Web ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/doc/latest/prereq.html>) から入手してください。

製品 CD で提供される Java 2 SDK

Java 2 SDK は、すべてのプラットフォーム上で、製品とともに自動的にインストールされます。

UNIX および Linux システムでの Mozilla ブラウザーの要件

UNIX および Linux システムの場合: Edge Component ヘルプを表示するデフォルトのブラウザーは、現在、Mozilla 1.4 または 1.7 です。

Windows システムの場合: Edge Component ヘルプを表示するデフォルトのブラウザーは、システム・ブラウザーです。(これは、前のバージョン 6.0 リリースから未変更です。) Windows システム上で推奨されるブラウザーについての詳しい情報

は、「Edge Components InfoCenter」Web ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/ecinfocenter.html>) でアクセス可能な v6.0.1 資料「Edge Components 概念、計画とインストール」にある『ブラウザの使用...』のセクションを参照してください。

Solaris のデフォルトのアダプター・タイプ

Solaris のデフォルトのアダプター・タイプは、ibmlb.conf ファイルに指定された eri になります。以前は hme と指定されていました。

Edge Components v6.0.1 (リフレッシュ・パック 1) で修正された問題

このリフレッシュ・パックで修正されたすべての Edge Components の問題のリストを入手するには、「WebSphere Application Server」Web サイトの「Support」ページ (<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/support/>) を参照してください。

- この「Support」ページから、修正サービス・ダウンロード・サイトへのリンクをたどってください。
- リフレッシュ・パックのダウンロード・サイトから修正された問題リストを含むファイルへのリンクをたどります。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Attn.: G7IA./503.
P.O. Box 12195
3039 Cornwallis Rd.
Research Triangle Park, N.C. 27709-2195
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- AFS[®]
- AIX
- DFS[™]
- IBM
- RS/6000[®]
- SecureWay[®]
- Tivoli[®]
- ViaVoice[®]
- WebSphere

Microsoft[®]、Windows、Windows 2000、Windows Server 2003、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java[™]、JavaScript[™]、およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan

GI88-8665-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12